



うちのイチ押し!

大阪歴史博物館 特別展

「埋忠〈UMETADA〉桃山刀剣界の雄」

埋忠とは桃山～江戸時代にかけて活躍した一門の名前。中でも刀剣、刀身彫刻、^{つば}鐔に長じた埋忠明寿の作品は刀剣界で高く評価されてきました。今回、一門の刀剣・刀装具を紹介、仕立て直しや金具制作にも着目します。

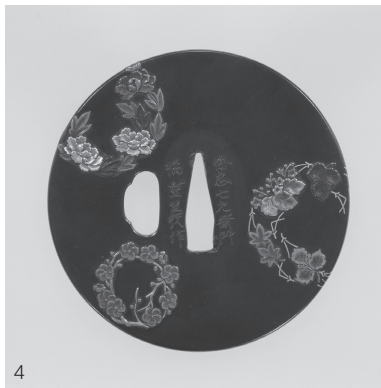
期間

10/31(土)～12/14(月)

会場

大阪歴史博物館 6階 特別展示室

〒540-0008 中央区大手前4丁目1-32
Osaka Metro「谷町四丁目」2号・9号出口
シティバス「馬場町」バス停前



- 1【重要文化財】短刀 銘 山城国西陣住人埋忠明寿 慶長十三年三月日 / 所持埋忠彦八郎重代
- 2【重要美術品】篇文鐔 銘 埋忠明寿
- 3【国宝】刀 金象嵌銘 天正十三十二月日 江 本阿弥麿上之(花押) / 所持稲葉勘右衛門尉 (名物 稲葉江)
- 4 花丸文鐔 銘 梅忠七左衛門 橋重義作

費用 【特別展のみ】大人1,900円 高大生1,200円(常設展との共通券はなし) ※中学生以下および障がい者手帳持参者(介護者1人含む)は無料
※就学前児童を除くすべての人に日時指定券(事前予約)が必要、販売はローソンチケットのみ

開館時間 9:30～17:00(会期中の金曜は20:00まで)
※入館は閉館の30分前まで

休館日 火曜 ※11/3(祝)は開館、11/4(水)は休館

主催：大阪歴史博物館、読売新聞社、NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿
問合せ：大阪歴史博物館 **電話** 6946-5728



おおさか

歴史探訪

150

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

しりなしがわ はぜつつみ 尻無川と櫓堤跡

記録的な暑さもあった夏も過ぎ、ようやく秋らしい日も増えてきましたが、今回はかつて紅葉の名所だったところを紹介しましょう。大正区と港区の間を流れる尻無川がその舞台です。

現在の大正区や港区付近は江戸時代の元禄年間(1688～1704)以降に新田開発が盛んになり、尻無川付近では三軒屋村や恩加島、泉尾といった新田が拓かれました。尻無川は淀川の下流の流れの一つとしてその間を流れており、朝鮮からの使節である通信使のおおる川、「唐人滞」ともいわれていました。その川に沿ったところには水害を防ぐための堤が築かれ、数千本の櫓が植えられ、ロウも採取されました。江戸時代末の撰津国の名所を紹介した『撰津名所図会大成』では秋の紅葉の季節には櫓が色づいて多くの人が訪れ、下流にあった渡船場には渡し守の甚兵衛による小屋が設けられて名所となっていたことが記されています。そうしたようすは『浪花百景』といった絵にも描かれました。春のシジミ採りも名高く、付近は江戸時代の人々の遊興の地、憩いの場となっていたのです。

現在は川が拡幅、整備され工場や共同住宅が立ち並び、江戸時代の堤の面影はなくなっていますが、甚兵衛渡船場として大阪市による無料の渡し船が現在も運営されており、大正区と港区とを結ぶ市民の貴重な交通手段となっています。そして近くの大正区泉尾にある泉尾浜公園には堤跡を顕彰する石碑とパネルが設けられています。



尻無川櫓堤跡の顕彰碑
(大正区泉尾7-17 泉尾浜公園内)